

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第109回本部会議 記録

日 時／令和4年5月13日（金）
15：00～：15：22
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第109回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。スライドの1です。主な指標の状況ですけれども、昨日、5月12日時点の新規感染者数ですが、今週先週比で引き続き1を上回っておりまして、人口10万対の新規感染者数は、札幌市369.5人、札幌市を除く地域で337.8人、全道で349.7人と、いずれの地域も増加が見られます。療養者数も同様の傾向でございます。また病床使用率ですが、札幌市20.5%、札幌市を除く地域で19.4%、全道で19.7%と増減を続けながら足下では増加している状況でございます。

続いてスライド2です。各圏域ごとの状況ですが、新規感染者数は、十勝を除く圏域で今週先週比が1を上回っておりまして、増加が見られます。病床使用率は、減少が見られる圏域がある一方で、道央圏や道北圏で増加が見られております。

続いてスライド3、総評でございます。医療提供体制です。療養者数は、ゴールデンウィーク後、足下で増加しておりまして、人口10万対468.8人、病床使用率ですが、増減しながら足下で増加傾向にございまして、全道19.7%、札幌市で20.5%でございます。

感染状況です。新規感染者数は、ゴールデンウィーク後、足下で増加し、人口10万対349.7人。年代別ですが、10代以下の割合が減少したものの、20代から30代が増加し、依然として30代以下で約7割を占めている状況でございます。なお、国の専門家からは、ゴールデンウィーク中は、診療や検査数が少ないため、現時点で感染状況の正確な評価は難しいとの指摘もございます。感染性がより高いとされるBA.2系統ですが、国の専門家によりますと、全国で概ね置き換わったとされる中、道内でもこれまでに276件が検出され、道立保健所管内分でいいますと、検出率は48.0%、札幌市分では70.1%で、その置き換わりが引き続き進んでいると考えられ、今後もゲノム解析のモニタリングによりまして、その動向を監視してまいります。また、国の専門家から、今後の感染状況は、人の動きが活発となったことなどの感染の増加要因と、3回目接種等による抑制要因に影響されるとの指摘もございます。

次にスライド4、総評2、今後の対策です。ゴールデンウィークの医療機関の休診等の影響も含めまして、慎重に感染状況をモニタリングしてまいります。また、今後の感染急拡大を防ぐため「普段から」「飲食の場面」「感染に不安を感じる時」の3つの行動を、道民の皆様お一人お一人に改めて点検いただくとともに、3回目接種の積極的な検討を働きかけてまいります。また企業などの事業所や高齢者施設、医療機関等には、ガイドラインの遵守、居場所の切り替わりなど、感染リスクが高まる場面の再点検や従業員、入所者、従事者等の3回目接種の促進を呼びかけてまいります。

また、依然として10代以下の感染者数が大きな割合を占めておりまして、連休明けの学校等の再開を踏まえまして、感染リスクの高い活動への感染防止対策の再点検や教職員の3回目接種の促進を働きかけてまいります。

地域では、振興局が市町村や関係団体などと連携しまして、3つの行動の再点検、また、3回目接種などの取組について、地域住民の皆様、事業者の方々などへ効果的に働きかけてまいります。

続いてスライド5、総評3です。マスク着用など基本的感染対策のあり方ですが、国が感染状況やウイルスの特徴を踏まえまして、専門家の意見を伺いながら検討を進めるとの考え方が示されておりまして、今後の国の検討状況を注視してまいります。なお、屋外でのマスク着用ですが、気温や湿度が高くなると熱中症のリスクが高まりますので、人との距離が十分な場合には、マスクを外すことが奨励されておりまして、さらに子どもは、発達状況を踏まえる必要がありますので、一律のマスク着用は求められていないところでございます。

続いてワクチン接種ですが、特に若年層の3回目接種の促進のため、様々な媒体を活用した働きかけの展開のほか、道の接種センターでの団体接種対象の大学や企業などへの情報提供の強化など、さらなる推進を図ってまいります。また、ノババックワクチンですが、6月上旬に接種開始できますよう道内の接種体制について、関係機関と最終的な調整を進めてまいります。さらに4回目接種に関しましては、接種を受けられる年齢や基礎疾患を有する方の接種券発行手続きに係る情報提供ですとか、必要なワクチン配分など、円滑な接種に向けまして、市町村への積極的支援に努めてまいります。

次にスライド6以降について、何点か主要な動向などを補足説明してまいります。

少しスライド飛ばしまして、スライド24をご覧くださいと思います。年代別の新規感染者割合ですが、円グラフにありますとおり、引き続き30代以下で約7割を占める状況でございます。この中で、10代以下の割合ですけれども、これまで感染者全体の約4割を占めるなど、各年代の中で最も高かったところですが、ゴールデンウィークに入りまして、10代以下の感染者が減少したこと、また、足下で特に20代の感染者が大きく増加したことなどにより双方の割合はほぼ同程度となっております。

続いてスライド26をご覧くださいと思います。3回目接種の状況ですけれども、5月11日現在、VRSベースで約295万人、接種率は56.5%。このうち65歳以上の高齢者の方が約146万人、接種率が87.7%。小児へのワクチン接種率は、1回目が15.9%、2回目10.7%となっている状況でございます。

スライド28をご覧くださいと思います。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、5月11日現在で、65歳以上では87.7%と高い水準でございますが、30歳代以下では40%に達していない状況にあります。今後、順次、若い世代が接種対象となってきますので、接種の加速化に向け、道の接種センターの活用を含めまして、市町村の取組を支援してまいります。なお、各年代別の3回目接種率の推移ですが、後ほどスライド29をご覧くださいればと思います。

続いてスライド30をご覧くださいと思います。感染者数や入院患者数と、ワクチン接種の関係性ですけれども、昨年いわゆる第5波、この時はデルタ株ですが、それと今年の第6波、オミクロン株を比較しますと、感染者数は7.6倍となっているものの、入院患者数は概ね横ばいの状況となっております。国の専門家からも、ワクチンの3回目接種により、重症化や死亡リスクの低減が期待されるとの指摘がございまして、道内の入院患

者数の推移にもそうした影響が見受けられると考えているところです。

続いてスライド31をご覧いただきたいと思います。道の接種センターでは、現在、5月29日までの予約を受け付けておりまして、全日程において現在予約に空きがある状況です。

スライド32をご覧いただきたいと思います。現役世代や若者世代の3回目接種を加速化するため、道のワクチン接種センターで、企業や大学などの単位での団体接種を受付中です。また、集中的な広報・啓発を進めておりまして、映画館や地下鉄なども活用し、札幌市等との共同広報も実施しているところでございます。

スライド33をご覧いただきたいと思います。4回目接種ですけれども、スライドにありますとおり、接種対象者や接種の時期・間隔等などが国から示されておりますことから、市町村において、円滑に接種が進められるよう積極的な支援を図ってまいります。

最後にスライド34をご覧いただきたいと思います。4回目接種に係るワクチン配分が国から示されておりました、3回目接種者、いわゆる4回目接種の対象者の方々を上回る十分な数量のワクチンが、6月から7月にかけて配分される予定となっております。道としましても、引き続き詳細な情報収集に努めますとともに、市町村や関係団体などとの調整を進めてまいります。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータでございますので後ほどご覧いただきたいと思います。資料1についての説明は以上でございます。

引き続きまして資料2をご覧いただきたいと思います。資料1「道内の感染状況等」につきましては、専門家や有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせをしております。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております、その主なものについてご紹介いたしますと、1-①や⑤のとおり、ゴールデンウィーク後、新規感染者数などが増加傾向にあることから、感染防止に資する3つの行動など、基本対策の徹底などを働きかけていただきたい、また、1-②、③、④のとおり、若い世代への3回目接種の促進などをお願いしたい、などといったご意見が寄せられております。また、市町村や関係団体の方々からは、2-①のとおり、不安なく自宅療養ができるよう、相談対応や物資支援など、サポート体制の充実や迅速な対応をお願いしたい、といったご意見が寄せられておりました、こうした面については、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

山口でございます。札幌市の感染状況につきまして、資料3に基づきご説明をいたします。それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてでございますが、昨日5月12日の時点で7,248人、人口10万人あたりでは369.5人となっております。連休中は通常時と比べて検査数が少なく、新規感染者数も減少しておりましたが、連休明けから増加傾向にあり、感染の急拡大には警戒が必要だというふうに考えてございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。入院患者数でございますけれども、黄色の棒グラフでございますが、昨日時点では130人となっております。このほか、市外からの7名の入院患者を受け入れているところでございます。これまでと同様、日々の数値は増減を繰り返しており、連休中には大きな増加は見られませんでしたけれども、連休明けには、患者数の増加が見られております。一方、新規の入院患者は軽症者が大半を占める状況は変わらず、軽症者にも必要な治療の方につきましては積極的に入院調整していることから、直ちに病床が不足する状況にはないと認識をしているところでございます。今後の動向につきましては、引き続き注視をしていく必要があります。重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、1人となっております低い水準でございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数につきましては、連休中は医療機関の休診に伴い減少しておりましたが、直近の1週間では16,131件と1日平均で約2,300件の検査を実施してございます。陽性率は4割を超えた状態が続いております。感染対策をしながら社会経済活動を進めていくためにも、感染状況や入院患者数の推移について引き続き注視をまいります。

また、感染拡大のスピードを抑えていくためには、ワクチン接種が非常に重要だというふうに考えてございます。本日14時から札幌市長定例記者会見の中で公表した事項ではございますが、札幌市では3回目のワクチン接種のさらなる推進に向けて、来週の19日から期間限定で地下歩行空間で予約なし接種の受付窓口を設置し、直結する札幌グランドホテルの臨時集団接種会場で実施ができる取組を実施いたします。こうした取組を通じて、引き続き新型コロナウイルスワクチン接種の推進に努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に各部、振興局から順次発言をお願いいたします。まず、教育長からお願いします。

【倉本教育長】

資料4をご覧ください。先ほどご紹介ありましたが依然として、10代以下の感染者数が大きな割合を占めておりまして、ゴールデンウィーク明けで学校が再開しておりますけれども、こうしたことを踏まえまして、各学校において衛生管理マニュアルに示されている感染率の高い活動について、資料4はその概要ですけれども、こうしたチェックリストを作成いたしまして、各学校において改めて感染防止対策の再点検を実施するように対応してまいります。また、教職員の3回目のワクチン接種については、各学校等において、教職員が接種しやすい環境作りに努めてまいります。

道教委といたしましては、引き続き子供たちの安全安心な学校生活と学びを保障するため、各学校などがこれまでの感染症対策を拡充し、取組の充実を図ることができるよう支援してまいります。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

このほか、各部振興局からご発言はございませんか。なければ本部長から。

【本部長（知事）】

ゴールデンウィーク後、初めての対策本部になります。今年は3年ぶりに行動制限がない中でのゴールデンウィークということになりました。道内においても、人の動きが活発となったゴールデンウィークとなりました。この期間中は、医療機関の休診などもありまして、ゴールデンウィーク中の感染の確認は減少していたわけではありますが、今週に入ってから、感染者数が増加しているという状況にあります。本日の新規感染者数についても、3,034人となってまして、3日連続で3,000人を超えているという状況になってます。病床使用率につきましても、足下では増加が続いています。現在の感染状況は、ゴールデンウィークの影響が現れていることが考えられますことから、増加が一時的なものなのかどうか慎重にモニタリングし、今後の動向を見極めていく必要があります。

こうした中、国の専門家からは、連休中の移動の増加などによりまして、今後、感染者数が増えることが想定されると指摘されております。道民の皆様にはこれまでお願いをして参りました3つの行動「普段から」「飲食の場面」「感染に不安を感じる時」それぞれの場面における感染防止対策の徹底などの行動を再点検の上、実践をしていただくようお願いいたします。

また、ワクチンの3回目接種を終わっていない方については、積極的に接種を検討いただくことも改めてお願いいたします。各本部員、地方本部員におかれましては、こうした3つの行動の再点検、ワクチン接種の促進について、企業などの事業所、高齢者施設、医療機関や関係団体、さらには市町村などに対し協力を依頼するなど、周知を図るよう指示をいたします。

年代別の感染者では、10代以下の感染者数が依然として大きな割合を占めております。学校の再開を踏まえ、感染リスクが高い活動について、感染防止対策の再点検を行うとともに、教職員のワクチン接種の促進について働きかけをしていただければと思います。

また、地域においては、先週比が大きくなるなど、感染の広がりが見られる圏域もありますことから、各地方本部員においては、市町村と連携をしながら、地域の状況に応じ、早期に注意喚起を行うように指示をいたします。

なお、道民の皆様などをお願いしております3つの行動には、マスクの着用が含まれているわけではありますが、この点に関しまして、特に屋外での着用について、現在様々な議論がなされています。改めての確認となるわけではありますが、マスクの着用について、気温や湿度が上がると熱中症のリスクが高くなる時期においては、人との距離が十分ある場合には、マスクを外すことを奨励しております。また、子どもについては、発達の状況を踏まえる必要がありますことから、一律にマスクを着用することは求めておりません。こうした点につきましても、丁寧に周知を図ってください。

ワクチンの接種について、市町村の皆様のご尽力によりまして、3回目の接種率は全国を上回る状況で推移をしております。3回目の接種につきましても、重症化予防や死亡のリスク低減が期待されますことが国の専門家から示されております。今後も着実に実施をしていくことが重要となります。このため、20代、30代の若年層を中心としたさらなる接種の促進に向けまして、企業や大学等の団体接種の推進など、道のワクチン接種センターの活用も図りながら、引き続き市町村の支援に努めてください。

今後、道民の皆様などに3つの行動の再点検、ワクチン接種の働きかけを行っていくに当たっては、道庁自らが行き、このことも重要となります。ゴールデンウィークが終了し、業務が平常に戻るこのタイミングで、改めて職員に向けた呼びかけをそれぞれ

れ徹底していただきたいと思います。

最後になりますけども、国の有識者会議が新たに設置され、一昨日になりますが、最初の会議が行われました。これまでの対応や、中長期的な観点からの課題の整備について議論し、6月を目途に必要な対応をとりまとめる予定とされています。こうした議論は本道にとっても重要なものであることから、議論の詳細について情報収集に努めるようお願いを致します。

私から以上です

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第109回本部会議を終了します。

（了）